

2021年10月29日開催
2022年3月期第2四半期決算説明会での主な質疑応答

Q1 国内スナックの価格・規格改定の目的とその効果について教えてください。

収益性の改善が目的である。加えて、北海道産ばれいしょの収穫状況がおもしろくなく、生産を落とさざるを得ないという背景がある。ポテトチップスの約80%、じゃがりこの70%を今回の改定の対象とした。これらは、生ばれいしょを原料とする製品群である。

効果については、来年1月下旬実施なので、今期については大きな期待はできない。改定率7-10%は店頭想定価格ベースであり、出荷価格ベースではもう少し小さい数字になる。来期については売上数量によるので、明らかになった段階できちんと説明したい。

Q2 値上げ後、スナックに対する需要は変化すると思うか。

食品各社が値上げを発表しており、スナックは値上げしても値ごろ感を確保できる。短期的に売上数量が落ちることはあると思うが、急激に需要が落ち込む可能性は低く、1年程度で戻るとみている。

Q3 今期、来期業績に対する原材料高騰影響を教えてください。

今期については、食油高騰により、対計画10億円のネガティブインパクト。価格・規格改定で一部リカバリするものの十分ではないため、販促抑制やその他のコスト・リダクションで吸収し、通期の営業利益280億円の達成を目指す。来期に与える影響については原材料価格が変動しているので現段階ではコメントできない。

Q4 販促抑制効果は今下期にも発現するか。

原料ばれいしょの収量減により、販促機会が減少するため、下期についても販促抑制による利益増が期待できる。

Q5 海外での価格改定について、いつ実施するのか。どの程度の改定になるのか。

大手メーカーがすでに値上げに踏み切っており、当社も商談を開始している。第3四半期から価格が変わる製品、得意先もあるが、多くの得意先で価格が改定されるのは第4四半期。コストアップを吸収できる価格設定で商談を進めている。

Q6 株主還元策をこのタイミングで変更した理由を教えてください。

上場以来、配当を増やすことで株主還元を行ってきたが、2019年にPepsiCo, Inc.との持株比率に関する条項が失効し、自社株買いが選択できるようになった。資本の効率的運用を図り、低下しているROEを向上させるため、安定配当を維持しながら、機動的に自社株買いを行っていく。

以上